

要旨

人ならざる者である異類と人間の婚姻などの恋愛を主題にした話の総称を異類婚姻譚という。

本稿では、その中で変身する異類としない異類の差には霊力の差があったことや、変身した異類の外見について否定的な意見は存在しなかったこと、変身することによって異類の目的が達成しやすくなることを指摘する。

方法としては『日本昔話大成』と『今昔物語集』にある異類婚姻譚から異類の性別と種類を集計し変身する確率や、変身した際の描写について集計した。

異類の種類

『日本昔話大成』

・異類獣

蛇、龍、河童、鬼、猿、犬、蜘蛛、馬、魚介、亀、狸、田螺、猪、鹿、木魂

蛇、龍、蜘蛛、魚介、亀が変身する確率が高い。
(蜘蛛、魚介、亀は確実に変身する)
河童、鬼、猿、犬、馬、狸、猪、鹿は変身する確率が低い。
(犬、馬、狸、鹿は確実に変身しない)

・異類女房

蛇、龍、蛙、魚介、竜宮、鳥、狐、狼、牛、猫、天人

蛇、龍、蛙、魚介、鳥、狐、狼、猫が確実に変身する。
竜宮、天人は確実に変身しない。

『今昔物語集』本朝世俗部

蛇、鳥、犬

巻二十四「嫁蛇女医師治語第九」
蛇 巻二十九「蛇、見女陰発欲、出穴当刀死語第三十九」
巻二十九「蛇、見僧屋寝閑呑、受姪死語第四十」
鳥 巻三十「人妻、化成弓後、成鳥飛失語第十四」
犬 巻三十一「北山狗、人為妻語第十五」

異類が女性性の話は、巻二十九「蛇、見女陰発欲、出穴当刀死語第三十九」と巻三十「人妻、化成弓後、成鳥飛失語第十四」のみであり、他の話はすべて男性性の異類である。

また、鳥だけが変身する。



①変身する異類、しない異類

女性性の異類は変身する傾向にあるが、男性性の異類はまとまりがない。

・男性性と女性性の異類における力の差

男性性
種族の違う人間に子種を産み付けることができる。

ただし針などの人間の道具や知恵によって退治される

女性性
洪水、地震、神秘的な力を持つ自身の目玉を渡す。

目玉がなくなっても死なない

・異類と人間が婚姻する理由

女性性の異類は人間への報恩や恋心
男性性の異類は労働の報酬や代償、動物的な本能から



→ 自分のためではなく相手のために婚姻する女性性の異類の方が神秘的な力を持つ。

→ 変身に必要な霊力の差に繋がる

しかし、神と思われる存在であるが変身しない話が存在する。

(『今昔物語集』巻三十一「北山狗、人為妻語第十五」)

さらに排斥されやすい男性性の異類において、犬・馬は変身していないにも関わらず人間から拒否されない。

→ 犬・馬は日常的に人間の生活の助けとなっていた。



→ 心情的に近い存在である異類は神秘的な力を持っていても変身しない。



②異類の外見

異類婚姻譚では、異類が変身した際の外見について描写されていることが多い。見られた記述について大きく三つに分類した。

(1)年齢に言及するもの

「若者」「爺」など。若さを強調する記述が多い。異類が男性性の場合によく見られる。

(2)美しさに言及するもの

「きれい」「美しい」など。男女両方に見られるが、女性性の異類は大半がこの分類に当てはめられる。

(3)立場を表すもの

「立派な」「良い男(もしくは女)」など。容姿の美しさを褒めるというより、身分の高さを強調する記述である。

→ 以上のことから、異類の容姿を褒める描写はあっても否定的な意見は存在しないことがわかった。

③異類の変身する目的

異類婚姻譚で異類が変身する話は多くを占めるが、なぜ人間に変身するのだろうか。

人間の姿である方が事実上の恋愛関係に至っている。

人間への近づきやすさ

→ 恩返しなどの目的を達成できる。

異類の容姿は素晴らしいと評されることが多い。また、変身前の異類の特徴を描写されることもある。(「異様に冷たい」など)

人外と人間との違いを表現するため

そういった存在が唐突に現れることの異質さ。

→ 物語上の存在であることの強調



まとめ

異類婚姻譚における異類の変身確率は男女で差があった。女性性の異類が殆ど変身するのは強い霊力を持っていたからであり、動物的な存在に近い男性性の異類は変身する確率が女性性の異類より低い。しかし犬や馬といった人間と心情的な近さを持つものは霊力を持っていても変身しない。

また異類が変身した際の外見について否定的な記述は存在しない。肯定的に捉えられる容姿が、人間に近づきやすく目的を達成するための手段となっている。また「美しい」「立派だ」という描写が人間との違いを示しており、異類が物語上の存在であることを強調している。